

第1部 「動物病院における動物看護職の重要性」

Part 1: The Importance of Veterinary Nursing in Veterinary Hospitals

原大二郎 獣徳会動物医療センター 院長

Daijiro HARA Director, Jutoku-kai, Animal Medical Center



おはようございます。ただいま御紹介いただきました JAHA 専務理事原大二郎です。私は家庭動物診療を開始して30年間になり、開設時から動物看護士を雇用した動物病院運営経験から、現在の動物看護職の在り方についてお話ししたいと思います。

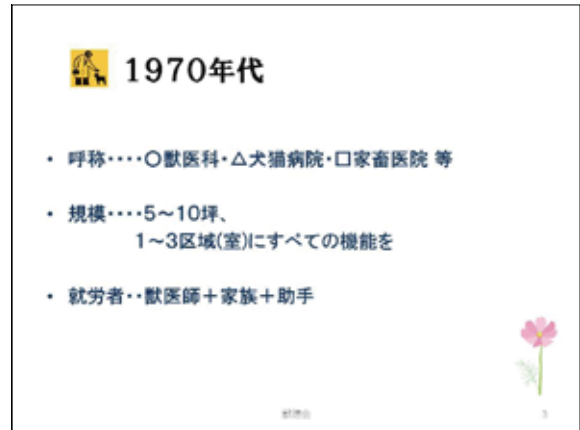


【スライド1】



【スライド2】

それでは早速、始めさせていただきます。私は愛知県で開業しています。この30年間の動物看護職と獣医師、そして社会情勢を少し振り返ってみます。私は1972年の大学卒業で、卒業当時は畜産の仕事をしていましたので、余り家庭動物診療事業には関係がなかったのですが、当時は獣医科、あるいは家畜診療所という名称が多くあった時代で、対象動物は展示会用の犬や猫から牛、鶏、豚などの家畜まで診療する時代でした。施設名称こそ違っても、ほとんどが獣医師一人というのが一般的規模構成でした。80年頃までは、獣医科病院と呼ばれ、待



【スライド3】

合室・診察室・レントゲン室等ほとんどすべての機能が小さな診療スペースのワンルームに収められていました。【スライド2】【スライド】



【スライド4】

私は1980年に開業しました。その2年前、アメリカでの経験から家庭動物診療はおもしろいなと思ったのでした。その面白さの一番には、やはり動物の生命限界に挑む治療ができる点が、当時の産業動物獣医師とは異なっており、まだ若輩でしたので、単純に無限のやりがいがあるように感じたのです。開業後10年が経ち90年代に入ります。家庭で飼育される動物の社会的役割というのが、従来のほとんどが番犬やネズミ対策猫であった使役動物の認識から、家族と一緒に暮らす家庭動物に変わってきました。同時期に獣医学教育も大学6年間教育なりまして、教育カリキュラムにも余裕ができ、犬猫等家庭動物診療科目が強化されていきました。ちょうどこの時代に各大学の教員職の方々がアメリカやイギリスに留学され、獣医学生にこれまで獣医学教科書にない新

しい家庭診療獣医学をお教えたいただいた大変有意義な時期だったと思います。家庭動物対象病院の開設も 85 年頃から徐々に増加していきました。やがて全国各地で動物病院が開設されるようになり、同時に私たち動物病院開設者は動物看護師の必要性を感じ始めます。やはり従来の手術に於いても動物看護の基礎教育を受けており、直ちに現場で使える人材として需要が高まっていきました。高校を出た方、あるいは短大を出た方ということよりも、動物看護専門学校を出た方の採用を優先する事はごく自然の流れであったでしょう。【スライド 4】



1990年代

- 資格認定団体によって民間認定が始まる
- 動物看護の職務・職域が法的整備のないまま進む
- 「動物看護師の会」等、動物看護師の自主勉強会が始まる
- 動物病院に動物看護師ありと社会認知が進展

【スライド 5】

御存じのとおり、1980 年代の末には日本バブル期の前兆がすでにあった時代として、獣医学の進展と共に、我々開設者の中にも近代獣医学時代がどんどんと入ってきました。そして 1990 年代は、御存じのとおり失われた 10 年間と言われるバブル経済が崩壊した時代でもあります。そのころには民間団体の手によって動物看護師の民間団体による資格認定が始まりました。この資格認定と時期を同じくして、雇用先の獣医師の動物看護師に対する認識に違いが、動物看護職に於ける業務範囲設定の間違を生じ、獣医師会等で度々、B 動物病院の看護師が行うあの行為は獣医法違反ではないか？あるいは、A 動物病院の看護師が行っていることは獣医師法違反行為ではないか？などの事案が、獣医事問題を取り扱う委員会によく上がり始めたのもこの時代からでした。同時期に動物看護職達で向上心のある方々による、動物看護師たちの活躍の場を模索した技術的勉強会が 96 年のころに始まりました。私の職場の動物看護師達も入会をしオープンホスピタル開催など協力していましたが、設立後 11 年ほどで行き詰まってしまうました。

【スライド 5】

2000 年から現在までの間に、動物病院には動物看護師ありという社会常識が定着してきました。しかし、私の職場経験からも、当時の動物看護師はまだまだ技術的にも、習得知識にしても不十分であり、動物看護師と云



2000年以降現在まで

- 更なる社会要求により動物病院の高度医療化が始まる
- 認定看護師2万人越の職種となり処遇整備を求められる
- 動物看護職務・職域には、法に抵触する矛盾が指摘されつつ、長年未整備であった反省から、日獣会を中心にあり方検討委員会が発足
- 日獣会の支援の下、動物看護教育の平準化と、職域・資格の公的認定に向けて、産学協同で動き始めた

【スライド 6】

う有資格者としての先行していた社会認知に答え得る実情ではなかったと記憶している。現在ではすでに民間認定動物看護師は 2 万人を超える時代になっていますが、動物看護師養成教育内容の基準化や、資格水準の平準化、雇用する動物病院側に於いても、そろそろ就業処遇について、業界一丸となって整備をしなければならない時代が来ました。動物看護職の高位平準化を達成するためには、やはりこれまでを振り返り反省すべきところは反省し、日本に最も実現化し易い動物看護職のあり方というものを見極めて、我々動物病院側も大いに協力をし、新しい時代に合った家庭動物診療に貢献できる資格基準の構築する時期に差し掛かりました。その先鞭を切って、本年 5 月、一般社団法人日本動物看護職協会が設立されたと認識しています。同時に、日本獣医師会の中で動物看護職資格の平準化と公的認定についても、積極的に討議していく委員が数年前から持たれています。これらは動物病院業務にとっても、現時問題を指摘されている動物看護師の質の確保を達成する事で、1 人の獣医師が時代要求に見合った十分な獣医療活動ができるのだと思います。私の経験では 1 人の獣医師が 2 ~ 3 人の熟練動物看護師との連携を持ってして、せいぜい 1 日 20 件しか診療ができないのです。【スライド 6】



動物病院から 望まれる動物看護職とは？

- 動物と飼主と獣医師に、獣医療の介助をもって安心・安全を保全する事ができる
- 動物福祉の観点に立ち、療養動物とその飼育者双方の心のケアをする事ができる
- 獣医療を幅広く介助できる平準化された教育を受けている
- 法律又は公的機関によって資格が担保され、その業務行為が獣医療法に抵触しないこと

【スライド7】

日本動物病院福祉協会(JAHA) の調査から見える動物看護士の実態

実施概要

対象: JAHA会員病院勤務VT(勤務VT会員)、JAHA個人VT会員、JAHA認定1級VT(勤務経験1年以上の方を抽出し、質問用紙を送付)

質問票送付数: 1610件
実施期間: 2007年5月1日～5月31日
質問票回収数: 356件(うち有効回答数351)

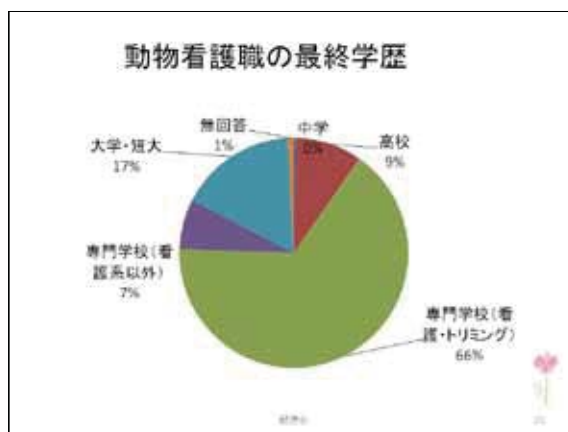
A B t B /BB : A

そして、きょうのメインテーマになります看護職の重要性ということ、動物看護職とは、どういうものか？

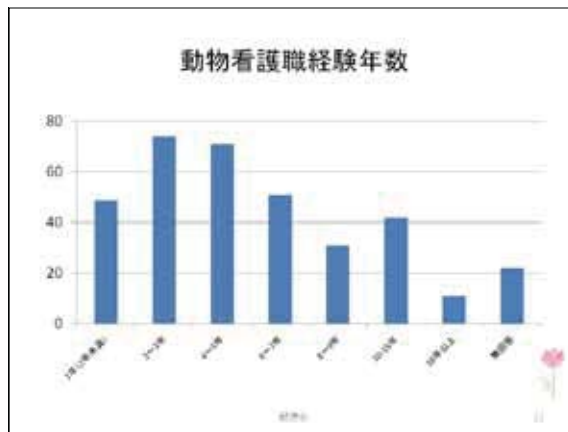
やはり論点は、治療に当たる獣医師と動物看護師と傷病動物の3者の安全を確保をする事。これがとても大事なことで、私どもの職場の大事な理念の一つでもあります。そして動物看護行為は動物福祉の観点に沿った傷病動物の治療環境の維持と看護技術支援をすること。そして、疾病動物を飼育する人々へ心のケアといいますが、いろんな意味で相談相手となる。以上の2点はとても大事なことです。その使命遂行には、動物看護教育カリキュラムもとても大事な要素となります。そのあたりも早急に全国養成校間で平準化が望まれます。

先程も言いました1日20件の診療可能な数値というのは、今から30年も前のアメリカでの私の研修調査から出た数字で、獣医師1対動物看護師3の比率で可能となるとされていました。実際に私のところでは、1対4は到底無理な数値で1対2と云ったところでしょうか。しかし、平準化された教育下で、資格平準化と専管業務の基準制定されたなら、あっという間に1対3は、30年以上遅れますが、日本でも実現可能となり、より身近に高度獣医療が全国で提供できる事となるでしょう。

A B t B /BB : A



A B t B /BB : : A



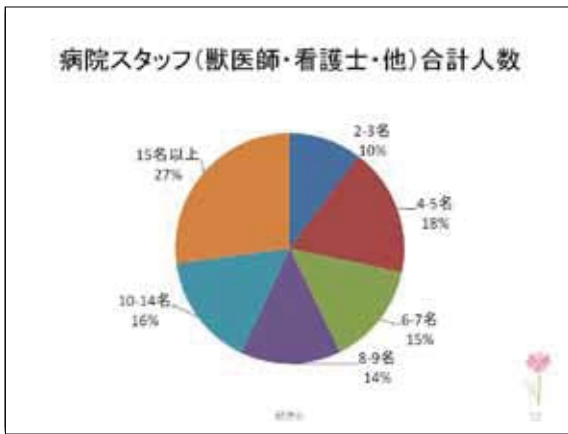
A B t B /BB : : A

07'JAHA・VT アンケート結果から

A B t B /BB : A

さて、1年半ぐらいになります。2007年にJAHAは民間認定先を問わない形で動物看護師の待遇と業務内容調査アンケートをさせて頂きました。勤務歴1年以上という方々を抽出して、356件の回答をいただきました。回収率22%。最終学歴は、中学卒業者は0%、高校卒者は9%、そして専門学校を出られた方が73%、短大、大学が17%、何と90%が高校卒業以上で、プラスその上の教育機関で教育を受けられていました。動物看護職経験年数ですが、平均が確か4年半ぐらいになっていますが、最頻値では2年未満となっています。

A B t B /B _B: C> : : A



【スライド 12】

現在の動物病院での職務は

- ・ 受付・会計 業務
- ・ 診療簿 管理・事務 業務
- ・ 診療介助 業務 (その他 調剤、臨床検査、画像診断)
- ・ 手術関連 業務
- ・ 入院室管理と入院動物看護
- ・ クライアント教育 (飼主様教育指導)
(糞トレーニング指導、食事管理指導)
- * 緊急医療への対応

【スライド 13】

では、動物看護師を雇用している動物病院の就労規模はどうであるかをみてみますと、その多くは4～6人の就労規模でしたが、私個人の予想では、今後は恐らく10名以上の病院が50%を超えていくのではないかと予想をしています。

では、現在の動物病院での看護師さんの職務というのを見てみますと、受付業務、薬室業務、診療補助業務、臨床検査業務、入院管理業務など病院内の多岐にわたります。

手術の関連業務中や緊急救命中の対応時など、動物看護師としてその使命感からであったり、日常業務の延長線上で在る事から職務範囲を逸脱しやすい日常業務があり、時折、獣医師側も無意識に職務逸脱させてしてしまう事例も多く認められました。

簡単な作業ながら獣医療法に抵触しやすい、特に緊急救命対応時につきましては、動物看護師の採血実例、あるいは蘇生行為例などが一部あるようなのですが、実際には獣医師も診療行為中であったり、あるいは手術中で緊急事態時に手が足りないときなどであると思われます。多くの動物病院では、緊急事態に迅速に対応できるように、日頃から動物看護師訓練はされているものと思います。未だJAHAに於いても、これら行為から受診動物への健康被害報告等は未だありませんが、ここが一番

危なく未整備な業務分野で在り、専管業務を持たない動物看護職域の欠点でもあります。【スライド 12】【スライド 13】

将来を展望すると・・・

- ・ 人の高齢化と家庭動物飼育可能な住宅の増加
- ・ 動物病院の中・大型化 (最近の動向)
- ・ 男性看護職者の求人が増える
- ・ 雇用・労働等、処遇の改善される
- ・ 長期就労が可能となる
- ・ 有資格者限定の職種となる

【スライド 14】

将来を展望すると、やはり人の高齢化も近い将来に超高齢化と言われる、90歳を超えるところまで人寿命は延びると言われています、そして社会環境変化から飼育可能な住宅の増加傾向。これらは公営住宅を含めましてどんどん進んでいきますので、将来は動物飼育可能住宅は増えていくのでしょうか。先ほどのデータにもありました家庭動物診療所の中大型化傾向は、これはJAHAも同じ傾向が見受けられていまして、入会時の病院規模なんかを見てますと、従来のように獣医師一人というのは本当に少なく、だんだん中大型化しているというのは実感しています。そしてこの傾向から動物看護師雇用が増えるだろうと云えます。女性ばかりではなく男性動物看護職も、病院施設管理者としての一面を担えば、機材の管理、建物の管理こういうものを含めて、やはり女性の看護職ばかりでなく、男性の看護職の求人は増えていくものだろうと思われます。これらを含めて、次には雇用環境改善が求められ、その結果として長期就労が可能になり、社会が認める職場が増える事でしょう。

【スライド 14】



獣徳会と動物看護師

1993年6月
8人の動物看護師たちは、検査・治療・入院中も、恐怖や苦痛に配慮して欲しいと ANIMAL WELFARE <動物福祉> を訴えた

動物福祉の5つの自由とは？

- ① 飢えと渇き
- ② 肉体苦痛と不快
- ③ 疾病と外傷
- ④ 動物種本来の行動
- ⑤ 恐怖と不安

獣徳会

15

【スライド 15】



獣徳会

16

【スライド 16】



獣徳会

17

【スライド 17】



獣徳会 組織図

病院長



獣徳会

18

【スライド 18】

私どもの獣徳会は 1980 年に設置しまして、当初、私と大学の同級生と、1人の動物看護師、動物看護師は大学で農学を専攻された女性で、以上3人でした。そして現在では、26名で、年中無休体制を取り1日70件ぐらい患者さんを診ています。これは私どもの組織図ですが、病院長がいて、そして動物看護職長と副院長が位置します。赤い文字の個所は動物看護職長が全てを管理する部門で、その下に看護職中級リーダーを置き、業務は看護主体で行う仕事となっている。【スライド 15～18】



獣徳会・動物看護職の平均勤務年数 現在7年6か月

動物看護師 12名

- ・ 勤続22年～1名 看護職長
- ・ 20年～1名 ワークシェア選択
- ・ 12年～1名 ワークシェア選択
- ・ 10年～1名 看護主任
- ・ 8年～1名 ワークシェア選択
- ・ 6年～2名 看護主任補
- ・ 2年～4名
- ・ 1年～1名

勤務獣医師 7名

- ・ 研修医 1名
- ・ 勤続29年～1名 副院長
- ・ 13年～1名 副院長
- ・ 12年～2名
- ・ 11年～1名 ワークシェア選択
- ・ 9年～1名 ワークシェア選択
- ・ 2年～1名 研修医(卒業3年間)

全員、動物看護職養成校卒
(文、理系4年生大学卒業養成校卒2名)
(臨床検査技師+養成校卒1名)

獣徳会

【スライド 19】



受付・会計業務



獣徳会

【スライド 20】

動物看護職の平均在籍年数は……12名の中で最長は22年、獣医師は30年。

動物看護職も獣医師の方にもワークシェアと書いてあるところは、これはフルタイムではなく、それぞれの生活の仕方や、性差によって暮らし方の違いの中でワークシェアをしてる。これによって長期就労が可能になる一番大きな要素ではなか。【スライド 19】【スライド 20】

栄養指導につきましても、獣医師が動物の生活指導しますが、それ以外につきましてもは看護職が主に行います。入院中の動物に不安を与えない、恐怖を与えないということも動物看護職の大事な仕事ですが、もう一つはやはり短い時間で効率よく仕事をするということも役割の一つです。



【スライド 21】



A B t B /BB : : A

これは診療業務です。青い白衣を着てるのが看護師で、白い方が獣医師、全く同じ素材とデザインですが、色によって職域を表現しています。



A B t B /BB : : A



A B t B /BB : : A



A B t B /BB : : A